



個人研究主題

グローバル社会に生きてはたらく力の育成をめざす社会科学習

—問いの吟味とグローバル社会への発信を意識したパフォーマンス課題を通して—

七里 広志

研究の要旨

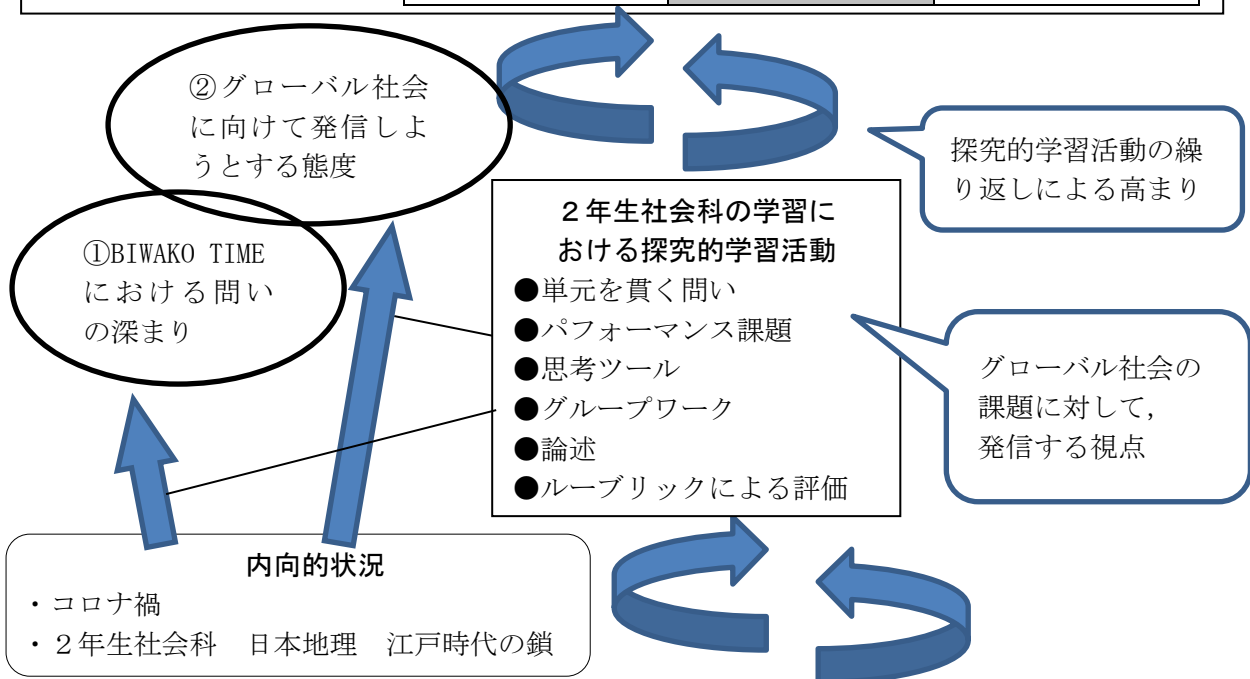
これまで社会科学習における単元単位での探究的学習活動を継続してきた。そこでは、単元を貫く問い、パフォーマンス課題、思考ツール、論述等を組み合わせた。すると、2年生後半頃から思考力・判断力・表現力が高まることを示すことができた。昨年度は3年生において、グローバル社会に生きてはたらく力の中でも「自分事として物事をとらえる」ことを意識し、カリキュラム・マネジメントを意識して三つの単元で探究的学習活動を継続した。すると、グローバル社会の課題に対して、自分事として捉える生徒が増えるという成果を示せた。

本年度は2年生において、まず、①本校の研究の柱である「問いから始まる」に関し、総合学習の問いの設定へつなげるカリキュラム・マネジメントを試みた単元の学習を実践する。次に、②コロナ禍の中でローカルな視点に陥りがちな中、コロナ後のグローバル社会に向けて発信する意識を高める学習を、それぞれ単元単位で設定したい。

■キーワード グローバル社会、問いの吟味、発信、パフォーマンス課題、論述

3年生の社会科の学習で特に意識大切にしたい「グローバル社会に生きてはたらく力」

学校教育目標	グローバル社会に生きてはたらく力		
1 自他の人格を尊重し、連携協力し合える人間に	多様性を尊重する	柔軟な見方・考え方	協調・協働する力
2 創造的な個性と正しい判断力をもつ人間に	幅広く教養を身につけようとする	多角的な見方・考え方	論理的に発信する力
3 自然と文化を愛する心豊かな人間に	自国を愛する	自国の文化や自然を探究する	魅力を発見する力
4 苦難を克服し、自ら開拓しようとする人間に	粘り強く取り組む態度	情報を収集・整理する力	課題発見・解決力
5 国際的視野に立ち、国と郷土を築く人間に	自分事として物事をとらえる	地球規模で物事を見る	新しい価値を創出する力





社会科(地理的分野)学習指導案

令和3年(2021年)5月18日(火) 第5校時
第2学年C組 授業者 主幹教諭 七里 広志

1. 単元名

「世界から見た日本(身近な地域の調査)」 「近畿地方」

2. 単元設定の理由

本年度の本校の研究主題では、グローバル社会に生きてはたらく力を培うために「問いから始める」ことを重視する。本校の総合的な学習の時間の根幹をなすBIWAKO TIME(BT)において、問いを設定する場面があるが、2年生の社会科「近畿地方」や「身近な地域の調査」の単元では、その基礎・基本となる知識を学ぶ。カリキュラム・マネジメントによりBTまでに社会科の該当単元を学ぶことで、社会科とBTとをつなぎ、深みある問いを提案させたい。

生徒はBTにおいて、問いを設定することに苦手な場合が多い。十分に問いを練っていないために、研究が深まらないこともある。この点に対して、本校では平成28年(2016年)度より探究的学習活動の研究を進める中で、そのプロセスのはじめに生徒が「課題を設定」することとし、練習として各教科で「課題を設定」する授業を試みた。しかし、時間がかかる上、生徒の設定する課題が多様で授業の方向性を定めにくく、一般的で現実的な授業展開を構築できず、定着しなかった。本校生徒の課題や問いを設定する力も当時とさほど変化がないと考える。

そこで本単元は、BTの問いの設定までに2年生の社会科で「近畿地方」と「身近な地域の調査」の学習を実施する。また、単元を貫くパフォーマンス課題として、BTの問いを吟味することを設定する。社会科の学習で学んだ知識を生かして、深みのあるBTの問いを提案し、深い研究につなげてほしい。なお、パフォーマンス課題を効果的に進めるために、グループワークや思考ツール、論述といったこれまでの手法を引き続き活用する。

3. 単元の学習目標

学習で学んだことをもとに、BTの問いを吟味し、より深い問いをBTで提案する。

- ・読図や統計資料の読み取り、野外調査等を通して、BTにつながる基礎的・基本的な知識を捉える。
- ・世界から見た日本や滋賀県、学校周辺地域がどのような地域なのか、考察して論述で表現する。
- ・日本や郷土に関心を持ち、問いについて吟味してBTで提案しようとする。

4. 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①読図や統計資料の読み取り、野外調査等を通して、世界から見た日本や滋賀県、学校周辺地域について地域的特色を捉えている。	②世界から見た日本や滋賀県、学校周辺地域がどのような地域なのか、考察して自分の意見を論述で表現している。	③日本や郷土に関心を持って学習に取り組んでいる。 ④BTでの問いについて吟味して深め、提案しようとしている。

5. 単元の学習計画(全15時間)

節	時程	学習活動	評価の観点		
			知	思	態
1次 世界から見た日本前半	(7時間)		○	○	○
2次 近畿地方(環境保全)	第8時	近畿地方と滋賀県1	○		
	第9時	近畿地方と滋賀県2			○
	第10時	近畿地方の環境保全	○		○
	第11時	交通と滋賀県		○	
3次 身近な地域の調査	第12時	地形図の見方	○		
	第13時	ワンポイント巡検	○		
	第14時	学校周辺は、どのような地域だろう?		○	
	第15時	BTの問いを吟味しよう(本時)		○	○

*授業の進行の関係で、実際には第11時は第14時の後に設定している。



6. 単元構想図

学校教育目標	グローバル社会に生きてはたらく力		
1 自他の人格を尊重し、連携協力し合える人間に	多様性を尊重する	柔軟な見方・考え方	協調・協働する力
2 創造的な知性と正しい判断力をもつ人間に	幅広く教養を身につけようとする	多角的な見方・考え方	論理的に発信する力
3 自然と文化を愛する心豊かな人間に	国や郷土を愛する	国や郷土の文化や自然を探究する	魅力を発見する力
4 苦難を克服し、自ら開拓しようとする人間に	粘り強く取り組む態度	情報を収集・整理する力	課題発見・解決力
5 国際視野を持ち、国と郷土を築く人間に	自分事として物事をとらえる	地球規模で物事を見る	新しい価値を創出する力

★どのような手立て・指導上の工夫で迫るか(指導観と重複)

- ・BTと社会科とでカリキュラム・マネジメントを意識して、BTの問いの設定までに2年生の社会科で「近畿地方」と「身近な地域の調査」の学習を実施する。
- ・単元を貫くパフォーマンス課題として、BTの問いを吟味することを設定する。
- ・グループワークや思考ツール、論述といった手法を引き続き活用する。

BTで提案する問いを吟味しよう どのような地域なのだろうか？ 学校周辺は、滋賀県は、日本は、 単元全体に関わる問い	<h3>単元の学習内容(単元目標と重複)</h3> 学習で学んだことをもとに、BTの問いを吟味し、より深い問いをBTで提案する。 <ul style="list-style-type: none"> ・読図や統計資料の読み取り、野外調査等を通して、BTにつながる基礎的・基本的な知識を捉える。 ・世界から見た日本や滋賀県、学校周辺地域がどのような地域なのか、考察して論述で表現する。 ・日本や郷土に関心を持ち、問いについて吟味してBTで提案しようとする。
--	--

	中1 地理	中2 地理	中3 公民	BT
学びのつながり	「アフリカ州」では、日本がどういった国際支援をできるかについて考察して論述した。	日本の諸地域を通して、グローバル化社会の中で、日本がどのように発信していくか、考察する。	現代社会や国際社会の学習において、日本がどのように活躍していけるのか、自分の意見を持つ。	問いを提案したり、研究を進めたりするうえで、社会科で学んだことを活用し、より学びを深めようとする。

7. ルーブリック

	S(A)	A(B)	B(C)	C(C)
思考・判断・表現②	世界から見た日本や滋賀県、学校周辺地域がどのような地域なのか、「初めのイメージ」と比べて学んだことを増やして深め、広く論述している。	世界から見た日本や滋賀県、学校周辺地域がどのような地域なのか、「初めのイメージ」と比べて学んだことを増やして論述している。	世界から見た日本や滋賀県、学校周辺地域がどのような地域なのか、「初めのイメージ」と比べて増やして論述している。	世界から見た日本や滋賀県、学校周辺地域がどのような地域なのか、論述が完成できない。
主体的に学習に取り組む態度④	BTでの問いについて、学習で学んだことを使って深めたことが理由の論述に表れ、問いも具体的に深まっている。	BTでの問いについて、学習で学んだことを使って深めたことが理由の論述に表れている。	BTでの問いが学習後によって変わってはいるが、学習で学んだことを使ったことが論述から読み取れない。	BTでの問いについて考えられていない。



8. 本時の目標および探究的学習活動の見どころ

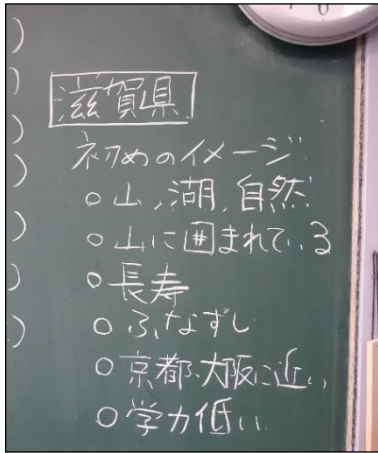
目標：②④学校周辺地域がどのような地域なのか、考察して自分の意見を論述で表現した上で、BTでの問いについて吟味して深め、提案しようとする。 【思考・判断・表現】【主体的に学習に取り組む態度】
 探究的学習活動の見どころ：BTに向けて社会科で学んだことを活かし、問いを吟味する。

9. 本時の学習過程

	学習内容・活動	○指導と★その意図 ◆評価
導入	1 昨年度のBTの問いを振り返る。	○スライドにより、拡大提示する。 ★BTの問いを吟味するという今回の学習活動をイメージする。
	学習課題 BTで提案する問いを吟味して決定しよう	
展開	2 滋賀県はどのような地域だと言えますか。 ・前回の内容を振り返りながら自分の言葉でまとめる。	○前時の板書を拡大提示する。 ★前回の内容を思い出しながら、まとめる。 ○数名の生徒に発表させる。 ★これまでの学習成果を全体で共有する。 ◆規準②(ワークシート)
	3 BTで提案する問いを吟味する。 ・自分が今提案したい問いをワークシートに書く。 ・4人グループで問いを交流する。 ・学習成果をもとに、最も問いを深められた人の問いを選び、ホワイトボードに理由とともに書かせる。 ・ホワイトボードを黒板に貼り、全体で交流する。	○なるべくこれまでの学習で学んだことをふまえて、最初の問いから変化させるように助言する。 ★学習成果をもとにBTでの問いや研究を深める。 ○グループワークでホワイトボードを活用させる。 ★小集団で交流することにより、各自がより深く吟味の過程を交流でき、ホワイトボードに示すことによってその過程を可視化できる。 ○タブレットでホワイトボードを撮影し、拡大提示する。 ○他のグループの吟味の過程に触れることで、各自の問いを改善することを検討する材料にするよう助言する。 ★他のグループの吟味の過程に触れ、自身の問いの改善に生かす。
	4 BTで提案する問いを最終決定する。 ・ワークシートに書いた問いを改善して書き直す。 ・初めの問いと比べて、どのように変わったか、どのように深めることができたか、論述させる。	○グループや全体での交流をふまえて、なるべく問いを改善させる。 ★社会科の学習で学んだことをもとにBTでの問いを深めさせる。 ◆規準④(ワークシート)
まとめ	5 各自の論述を全体交流する。	○今回改善した問いを、BTでなるべく提案できるように助言する。 ★カリキュラム・マネジメントの一環として社会科の学習と総合学習をつなぐ。

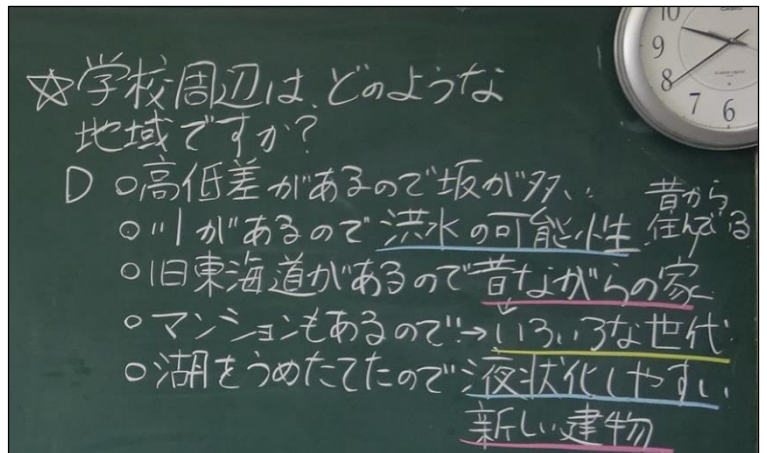
第8時(2C) 事前の取組

「滋賀県はどんなイメージなのだろう？」
初めのイメージを挙げる (3' ごろ)



第14時(2C) 事前の取組

「学校周辺はどのような地域だろう？」
問いに対して考察する (10' ごろ)



第15時(2C) 本時

「BTの問いを吟味しよう」「滋賀県はどんな地域なのだろう？」
昨年度のBTの問いを振り返る (23' ごろ)

<p>★BTで提案する問いを吟味して決定しよう</p>	<p>★BTで提案する問いを吟味して決定しよう</p>
<p>○彦根城はどのような地形を生かした守備を展開しようとしていたのだろうか？</p>	<p>○近世の滋賀県の城は、当時の交通の状況からどのような場所に立地していたのだろうか？</p>
<p>○近世にある城の場所と街道・水運にどのように関係しているのだろうか。</p>	<p>○滋賀県で有名になった人物は、なぜ滋賀県だったのだろうか？</p>
<p>○現代で有名になるにはどうすればよいか。</p>	<p>○長寿の県で共通してよく食べられているものは何だろうか？ また、それはなぜだろう？</p>
<p>○滋賀県の城を拠点とした人物の共通点は、どのようなものがあるのだろうか。</p>	
<p>○滋賀県で長寿の原因には食文化があるのではないか。また、外国との共通点がそこにあるのではないか。</p>	

第15時(2B) 本時

「滋賀県はどのような地域だろう？」
初めの問いと比べてどのように変わったか、どのように深めたか (35' ごろ)

BTの問いを吟味しよう

同家 同家 同家

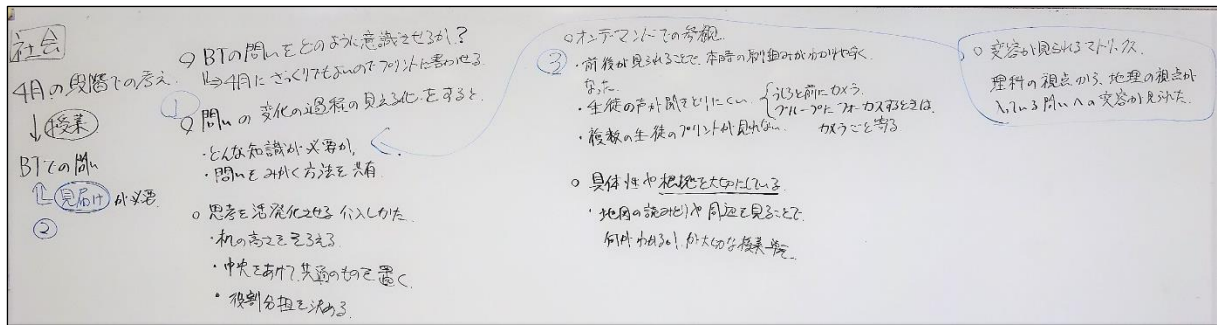
E 滋賀県はどんな地域だろう？

- 地域によって気候がちがう
- ベッドタウン
- 近畿の水がめ(琵琶湖)
- 高速道路が多い
- 昔から交通の便がよく栄えた
- 県内が近江盆地←山
- 琵琶湖の水環境を守る取組 → 清掃活動

BTの問い

- 昔から交通の便が良かった滋賀県はどのようなベッドタウンになったのだろうか？ 外国との関係はあるのか？ (7班)
- 滋賀県は自然豊かで安全で歴史があるのに、京都府と大阪府に比べて観光客が少ないのはなぜか？ (1班)
- 外国の人に「滋賀ってどこ」ではなく「滋賀良い所だね」と覚えてもらうにはどうすればいいだろうか？ (5班)
- 滋賀は交通の要所として栄えたが、それと滋賀の方言はどのような関係性があるのか？ (9班)
- 滋賀は田舎で地味な場所だからか、街は栄えていたけれど、今は強制的な観光客が来るようになったのか？ (6班)
- 滋賀県は地域によって気候が異なるが、それと一緒に文化や産業も異なるのか？ (4班)
- 滋賀県には大津祭外なるが、この大津祭の文化はどのようにして創作されたのか？ (8班)
- 平均寿命と滋賀県の気候や地形、他県とは関係しているのか？ (3班) また、それはなぜだろうか？
- 滋賀県で有名な工芸品を他の都道府県の人や世界の人にも知ってもらいたいという工夫をするといふのだろうか？ (2班)
- 田舎の気候が地域によってちがう

10. 校内研究会・研究協議時の意見(7月7日(水))



① BTの問いをどのように意識させるか

- ・思考を活発化させる工夫は？
 - 机の高さをそろえる
 - グループの中央をあけて、ホワイトボードなど共有できるものを置く
 - グループで「司会・記録・決定・発表」など、役割分担をする
 - 今回は各グループの意見を読み上げたが、「推薦」を挙げさせてそれをきっかけに全体共有することもある
- ・問いの変化の過程を見える化するマトリックスだった
 - 4月の時の問いは理科の視点からだったものが、授業後は地理の視点が入っているものに変容していた
- ・問いをみがく方法を共有
 - 「A組・B組・C組の問いが良くなったのにどんな共通点があるか」という補助発問がワークシートにあれば、効果的ではないか
 - 論述解説プリントを作成して、配布している。
- ・具体性や根拠を大切にしていた
 - 地図の読み取りや景観を見ることで、何がわかるかが大切な単元である

② BTでの見届けが必要

- ・各教科とBTをつなげるのは、学習が深まっておもしろい。
- ・BTでどのような成果が出たのか、追跡調査をしたい

③ オンデマンドでの参観

- ・ぜんごが見られることで、本時の取組がわかりやすくなった
- ・本時だけでなく、結果まで見えるのはよかった
- ・生徒の音が聞き取りにくかった
 - テロップを入れることで対応したい。
- ・カメラを前と後など複数用意し、グループにフォーカスするときはカメラごとによる必要がある
- ・複数の生徒のプリントが見れない